

(令和4年度)
学校・園自己評価書

園番号	園名
714	朱雀こども園

714朱雀こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画	① 教育目標の設定	・園の教育目標「心身ともに健康で主体的に活動できる子どもの育成」を目指し、年間計画を作成し、教育活動の評価をする。 ・園児の「生き抜く力を育む」を教育ビジョンに掲げ保育内容の創造を図る。	・全体的な計画を作成し、どのような保育を進めていくかなど（研究主題）を職員全員で検討し、取り組んだ。子どもの姿から保育を見直し、反省、評価を行いながら進めることで、次年度につながると考える。このことは、職員で共通理解し次年度にむけて課題に取り組んでいく体制となった。	A	・保護者アンケート「園の教育・保育目標は適切であると思いますか」に97%が肯定的な回答をされた。	次年度にむけて、本年度の課題（年間行事など）を職員で話し合い保護者子どもにとっての最善を考えて方向性を明らかにする。
		② 教育計画の作成			A		
		③ 教育課程の編成			A		
		④ 教育活動の評価			A		
	(2) 教育内容・保育指導	① 指導計画の立案	・毎月の指導計画を見直し、学年ごとに計画を検討立案する。 ・園の研究主題に基づいた指導内容の工夫を行い、質の向上を図る。 ・日々の幼児の姿を基に保育者間で話し合い、発達に応じた環境構成や援助を明確にし、保育を行えるようにする。	・日々の保育内容や、0から5歳までつながった保育をするため、乳児・幼児が共通理解できるように会議を調整し時間の確保に努めた。 ・園内のミドル研修の充実や、園外も対面とリモートで多く参加ができた。また、園内公開保育も充実し行うことができた。	A	・「お子様は楽しく園生活をおくっていますか」「基本的な生活習慣や、ルールを守る指導がされていますか」等について96%など高い回答であった。「朱雀こども園で良かった」というご意見も沢山いただいた。	・出来る範囲で参観や懇談会を開催し、園での様子を見てもらい、話もできた。ホームページも活用したが、見ておられる頻度が少ないため、啓発の必要性や、その他様々な方法で、園の保育内容を発信して行きたい。
		② 保育内容の精選			A		
		③ 指導方法の工夫改善			A		
		④ 評価			A		
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	・安全に留意し、園、家庭、地域がつながる園行事を計画し、幼児の生活が豊かになるようにする。 ・行事を通して、小学校や地域の方々との関わりが十分にとれるようにする。	・人数や方法を考え、プール、県外への遠足その他、地域との交流ではフラダンスやコンサート、人形劇など多くの交流を行えた。異年齢の方と触れ合うことで、優しさや温かさに触れ自尊感情が育まれてた。そのことは、友だちを思いやったり、相手の立場に立つなどの心が芽生え、豊かな感情が育っている。	A	「コロナ禍の中、安全に注意してできる限りの行事をして頂いた」のご意見や、行事の後、連絡ノートや翌日に保護者からお子様の成長を喜ぶ声がたくさん聴かれた。地域の方からも心温まる感想を頂いた。	多くの行事が行えたことは、大変良かった。行事の様子やねらいを、保護者や地域の方により発信していく方法を模索し、地域の中での子育てに繋がるようにしていきたい。
		② 行事内容の精選			A		
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	・自分も友達も大切にし、仲間と楽しく遊ぶ子ども集団を作る。その場その場で一人一人の思いに寄り添い丁寧な指導を積み重ねる。	・子どもの姿を中心に会議をするなど情報交換し合い、幼児理解に努めた。反戦平和の集いや、人権の日の取り組みを行った。友だちの気持を理解し共に心を通わすことができるような指導を積み重ねてきたことで、相手の思いに気付き気持ちよく生活できるようになってきている。	A	・保護者は、「園では、命を大切にすることや社会のルールを守る指導が適切に行われている。」のご意見を頂き、質問にも肯定的に回答している。	・日々の幼児の姿をきめ細かく見取り、記録をとりながら内面を探っていく。また保護者には、幼児の日々の姿を具体的に知らせ集団での学びや育ちを伝える。
		② 保育内容の精選			A		
		③ 指導方法の工夫改善			A		
	(5) 生徒指導（園児の豊かな人格形成等）	① 組織的な指導	・報告・連絡・相談を綿密に行う。 ・一人一人の幼児の思いに寄り添う。 ・保護者の思いや願いを十分に聞き、寄り添う。 ・適切に実態を把握し、必要な場合は連絡をする。 ・対処方針や指導計画が明確である。 ・日頃より実態把握・早期発見に努めている。 ・各学級の状況を園組織として共有できている。 ・保護者や地域と連携できている。 ・組織的に迅速に対応する体制が整備されている。	・朝礼や会議で伝えたり、幼児や保護者の思いや願いを報告し職員全体で関わってきた。また、職員の思いや考えを出し合うことで指導方法を見出すことができた。 ・一人一人の発達や心情を捉え、自尊感情を育み自主性や社会性を身に着けるようにした。 ・幼児の小さな信号を見逃さず、気になることがあればすぐに報告、連絡、相談をし、職員が一丸となって手立てを行うように努めてきた。 ・市や地域などと連携・共通理解し、迅速に対応できるようにした。	A	・「保護者が不安に思っていることを園側に話せる雰囲気や環境をつくっているか。」 ・「こども園では、命を大切にすることや社会のルールを守る指導が適切に行われているか。」の設問に85%以上肯定的な解答をいただいた。 ・子どもへの虐待の事件についてのご心配のご意見も聞かれたため、安心してお預けできるように、保護者との会話に努めた。	・今後も幼児の様子や言動を大切にし、いじめの糸口を見逃さないようにすることが必要である。 ・保育士の虐待の事件などが報道されていることに対して、重く受け止めて、会議を行った。また、業務や職員の心情に寄り添い保育の相談を行うなど、常にアンテナをはり、子どもたちの安全保育に努める。 ・保護者や幼児に集団として必要な事、道徳心、今、身に付けなければならないことを知らせ共に子育てしていく必要があると考える。
		② 教育相談・幼児理解			A		
		③ 家庭との連携			A		
		④ 関係諸機関との連携			A		
		⑤ いじめ・児童虐待問題について			A		
					B		
					A		
					B		
	(6) 特別支援教育	① 推進体制	・一人一人の園児の持っている力を十分に発揮して充実した生活が送れるようきめ細かな配慮をする。 ・保護者と連携し、ゆっくりと育つ幼児の姿を共に見守り集団の中の一人ひとりの力を発揮していく。	・集団の中で子どもが安心して過ごせるような環境づくりや子ども同士の繋がりが深まるような保育の工夫をしてきたことで、助け合ったり見守ったりなど、クラス全体の育ちへと繋がってきた。 ・個別の指導、支援計画を特別支援コーディネーターと共に作成し、必要な保育を行うことが出来た。 ・特別支援研修を園内で行った。（ミドル研修、特別支援教育コーディネーター） ・特別支援担任とフリーの保育教育士で学期に1度は会議を計画し、保育について悩みを出し合った。	A	・特別支援コーディネーターと連携し発達の実態を把握し、その子に合った指導のありかたを各担任が工夫する。 ・奈良市子ども支援課や奈良市教育委員会教育相談課、各小学校などの関係機関と連携をとりながら特別支援教育を進めている。 ・就学に向けて、各学校保護者と情報が共有できた。	・互いに相手を認め合い理解し合う幼児に育つように、また集団の中で一人一人が自己の力を発揮していくように積み重ねていきたい。 ・職員研修の充実 ・保護者に寄り添い、関係機関との連携をより一層密にする。
② 個々に応じた特別支援教育の内容		A					
③ 指導方法の工夫改善		A					
④ 家庭との連携		A					
⑤ 関係機関との連携		A					

(令和4年度)

学校・園自己評価書

園番号	園名
714	朱雀こども園

714朱雀こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の職員会議、研修の充実を図る。 ・職員の公務文書の適正化をする。 ・職員の保育の質の向上を図る。 ・職員との信頼関係を密にし、風通しの良い職場環境を作る。 ・職員の自尊感情を高め、保育意欲の向上を図る。 ・園評価を実施し、次年度に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が意欲的に業務できるように、係を決め少し上の業務を任せる等に努めた。 ・日々の朝礼等で、職員間の報告・連絡・相談を密にすることで、活動内容を把握し共有することができた。しかし、年々事務分担の量が増し、迅速に処理できない状況である。 ・コロナ禍の中、分園としての課題に対しては、例年のように乳児棟と幼児棟と全員で会議や人事交流も時間や人数の制限もあり、十分にできなかった。 ・職員間で意識的に話し合いをもち、できる限り最善の園運営に努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・分園と職員人数の多い分、全職員への周知や、両棟の把握、連携することの難しさを感じ、徹底することの大切さを日々感じる。 ・評議委員の方から園評価をいただき、園児の姿や表情、職員の保育の様子から、職員間の連携や職場の雰囲気の良いさを評価していただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告・連絡・相談をしっかりと行いながら教職員の信頼関係を築き、何でも話せる雰囲気作りに努める。 ・引き続き、管理職との面談、職員間の面談を定期的に行う。 ・公務文書を適正にかつ迅速にこなせるように、時間確保と早めの声掛けを行うなど計画的に行う。
		② 園経営目標・方針					
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識					
		④ 園務分掌等の連携					
		⑤ 会議の運営と位置づけ					
		⑥ 会議の結果					
		⑦ 職場の人間関係					
		⑧ 園評価の実施					
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・研究主題を中心に各種研修や園内研究、公開保育を行い、教育の資質向上を目指す。 ・園外研修に参加し、学んだことを伝え合い本園の実際場で生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中でも園外の研修については、職員の特性を生かし、計画的に行うことができた。（園外は対面やリモートの研修に参加し、園内では公開保育やミドル研修を行った。）・動画などの活用により、全職員間で保育について話し合いを深められた。 ・会議も3部制にし、記録を掲示することで、連携に務めた。 ・会議の中で役割を決めて報告することで、職員全員の質の向上につながった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研究主題を中心に計画的に会議をもち、子どもの発達や保育について話し合いができた。 ・園内の研修についても、多人数の職員が参加できる方法を探り、充実して行うことができた。また、記録を全職員で共通理解し、環境整備や保育の継続子どものみとりに繋がった。 ・園内研修については時期が集中し、参加しにくい場合も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記録、アンケートなどから、職員の思いや意見を吸い上げ、次につなげる。 ・また、少し上の業務を行うことで、自信をもち職員の意欲を高めることができるようにしていく。
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施					
		③ 園外の研修への積極的参加					
		④ 園外研修内容の報告や伝達					
		⑤ 研修成果の普及					
	(3) 安全管理	① 安全計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・安全計画、防災計画を作成し、迅速かつ適切な対応ができるよう、緊急時の連絡体制を整える。 ・幼児を疾病、事故、災害、不審者から守り、生命と健康を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と連携し共に危機管理の体験をすることができた。また、園での避難訓や防火訓練に、生かすことができた。女性防災の他、警察署の方の研修を行い不審者対策について学んだ。 ・避難訓練便り、ドキュメンタリー、朱雀ニュースで保護者や地域に啓発をおこなった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「こども園では、健康管理や安全に対する指導が適切になされている。」の設問に対して、85%以上の保護者が肯定的に回答している。しかし、コロナ禍の中で今年度は引き渡し訓練ができなかった。また、避難時の対応などについてご家庭での話し合いなども必要であると考え、伝えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震や災害についての保育をホームページに掲載したり、園での訓練の様子を視覚化して保護者に伝えていく。引き渡し訓練を引き続き行っていき、ご家庭でも災害についてお子様と話をしていただけるようにしていく。
		② 防災計画の立案					
		③ 危機管理体制の整備					
		④ 安全指導の工夫改善					
		⑤ 家庭との連携					
		⑥ 関係機関との連携					
	(4) 保健管理	① 保健計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児や保護者が健康への意識を高められるような機会をもつ。 ・食育を通して、健康な体づくりを推進する。 ・アレルギー対応を見直し、安全な給食の提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤師より、「手洗い教室」を実施したことで、正しい手洗いの仕方や風邪の予防や対策について学んだ。 ・職員に対しては常に健康と今年度は感染症についての情報、対応を伝えたり確認し、安全に努めることができた。 ・アレルギー会議も適切に行い、安全な提供ができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康に関わる指導は適切にされているか」に対して94%以上が肯定的に回答されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が自分の健康について意識がもてるような指導方法を工夫する。 ・健康と安全保育について職員間で話し合い、保護者に伝え家庭とともに進めていく。
		② 心のケアや健康相談の体制の整備					
③ 健康観察、健康管理能力の育成							
④ 関係機関との連携							
⑤ 昼食の衛生管理							
(5) 地域との連携	① 園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域との協力体制を密にする。 ・小学校や園周辺の学校園と連携をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会、作品展、芋ほりや、環境ボランティアさんとの交流などで、評議委員さんや地域の方と交流することができた。子ども達が地域の方との交流を意識し楽しめるように話をし望むようにした。・地域の会議に参加したり、朱雀ニュースを発行したりし、地域にこども園の情報を伝えることができたことで、より園のことを知っていただけた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「園では地域の方との豊かな触れ合いを通して豊かな心の成長に取り組んでいると思われませんか」に対して90%以上が肯定的な回答をいただいた。また、地域の方からも連携についてお褒めの言葉をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根差したこども園となるように、また、保護者の方、子どもたちが意識をもち交流できるように、更にホームページやニュースなどを活用し、発信していく。 	
	② 園(保育)公開						
	③ 小学校との接続・連携						
	④ こ幼保との連携						
	⑤ P T Aの活性化						
	⑥ 地域教育協議会との連携						
	⑦ 学校関係者評価の実施						
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児にとって気持ちよく安全に過ごせるように、環境の整備充実に努める。 ・施設内の安全点検を職員全員で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動や環境整備で園内を美しくするように努めている。職員が遊具点検を行う業務を行うことで危機管理意識を持つようにしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 草刈りや木の伐採など、地域の方と保育者が行うことで、常に意識し環境整備ができた。ただ、アンケートで園庭の泥濘や雨の日の廊下についてご意見をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、課と連携をとり、補修や、安全な保育環境作りに努める。職員で担当制をとり整備に努める。 	
	② 施設設備の有効利用						
	③ 施設設備の管理						
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理・保護の徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データ化が進んでいる中、個人情報の管理についての職員の意識向上を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「こども園では、子どものプライバシーが守られている。」との設問に対して、90%の保護者が肯定的に回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報については危険度を全職員が意識し、常に確認し、更なる個人情報の管理・保護の徹底を図る。 	
	② 公文書の作成						
	③ 個人情報の管理・保護						
	④ 情報の収集						